地球とヒトの歴史を旅する

遥かな時を超えた不思議に出会う場所。

いちはら × 歴史

Place where it is possible to meet a time long since passed.

上総国分寺と国分尼寺、約2500か所もの遺跡や貝塚……。
市原市には、悠久の歴史を物語るスポットがたくさんあります。
2020年1月17日には、市原市田淵の地磁気逆転地層が
国際境界模式層断面とポイント（GSSP）として認定されました。
これにより、約77万4千年前～約12万9千年前の地質年代を
「チバニアン」と呼ぶことになりました。
地質年代に日本の地名が採用されたのは、史上初の快挙です。

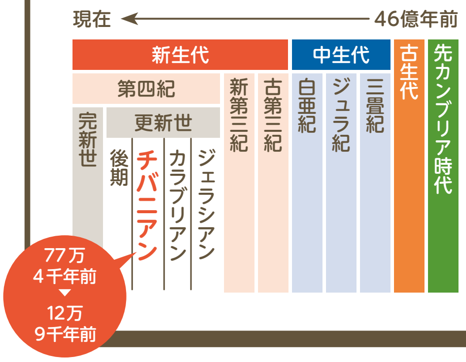
About 2500 historical sites and shell mounds,
including the Kazusakokubunji and Kokubun-niji (convent) …
There are many opportunities to feel the perpetuity of history in Ichihara City.
On January 17, 2020, the Global Boundary Stratotype Section and Point (GSSP) recognized the mineral deposit from the Tabuchi District of Ichihara City as evidencing the reversal of the earth's polarity.
Following this, it was decided to name the geological period from 774,000 years ago to 129,000 years ago the "Chibanian Age".
Being selected as the first geological age of Japanese origin is a historical achievement.

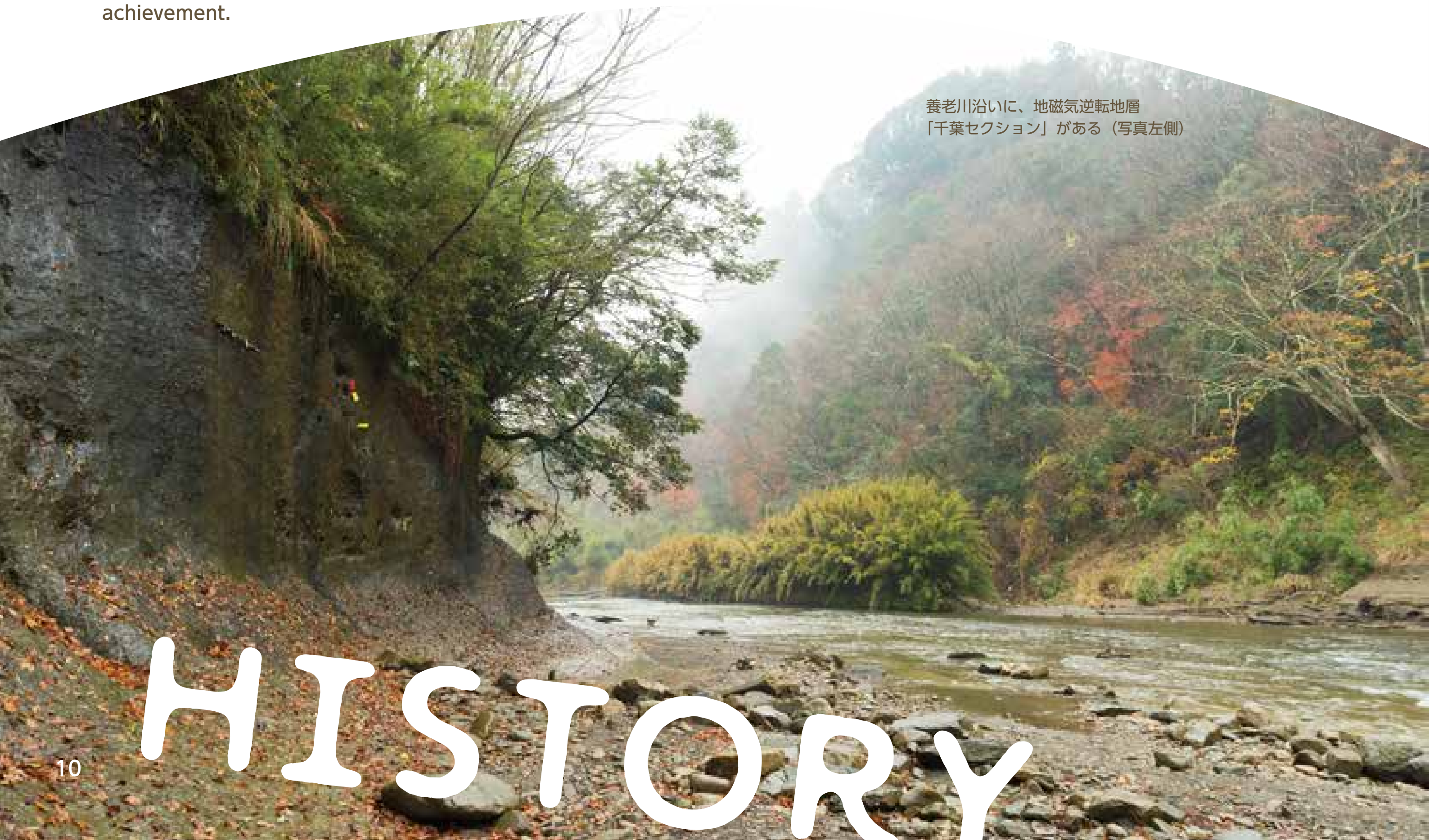
チバニアンとは？

What is the Chibanian Age?

約77万年前に起きた最後の地磁気逆転現象の記録を良好に残す地層が、田淵の地磁気逆転地層「千葉セクション」です。国際学会により、この地層が第四紀更新世前期と中期の境界を地球上で、もっともよく観察できるGSSPに認定されたことから、その年代境界から始まる更新世中期（約77万4千年前～約12万9千年前）の年代名称を「チバニアン」（ラテン語で「千葉の時代」の意）と呼ぶことに決まりました。

The Chiba section, which well illustrates the boundary between the Early and Middle Pleistocene (770,000 years ago) when the last geomagnetic field reversal occurred, was approved as the GSSP by an international institution. And "Chibanian" (Latin for "Chiba Age") is listed on the geological age from 774,000 to 129,000 years ago.





養老川沿いに、地磁気逆転地層「千葉セクション」がある（写真左側）

HISTORY

知的好奇心をくすぐる いちはらの歴史スポット

Historical spots around Ichihara will pique your intellectual curiosity

01 市全域が歴史の舞台 I' Museum（アイミュージアム）

I' Museum, the entire city is a stage upon which history has occurred

市原歴史博物館（仮称）を拠点とし、市全域を歴史の舞台ととらえるプロジェクトの愛称を「I' Museum」としています。また、博物館を「I' Museum Center」、史跡などが広がる各地域を「I' Museum Field」と、それぞれの愛称も決まりました。市内全域をフィールドミュージアム（屋根のない博物館）に見立て、見学ルートを整備していきます。

イノシシ形土製品

「王賜」銘鉄剣

人面付土器

I' Museum Center

市原歴史博物館（仮称）

市の歴史や文化遺産を後世に伝える博物館として、2022年に開館予定です。既存の埋蔵文化財調査センターをリノベーションし、歴史遺産の収蔵、保管、調査研究、公開展示、教育普及、情報提供など、さまざまな機能を備えます。

The museum will open in 2022 as a place for conveying the history and cultural heritages of the city to future generations. The existing Buried Cultural Properties Research Center is being renovated, and the new museum will be equipped with a number of functions, including collection, storage, research, public display, education and information provision for cultural heritages.

外観は、市原市の歴史を形づくってきた「大地」をイメージしている。

02 奈良時代の面影をいまにのこす 上総国分寺・国分尼寺

Kazusakokubunji and Kokubun-niji (convent), shadow of the Nara period that still exists today

聖武天皇の詔（741年）によって全国各地に建立された国分寺・国分尼寺の跡地です。ともに国の史跡に指定されています。国分尼寺には出土品や復元模型を展示する「史跡上総国分尼寺跡展示館」が併設されています。

奈良時代の工法で復元された国分尼寺の中門と回廊

03 平安時代に思いを馳せる 更級日記

Sarashina Nikki, reminisce about the scenery of the distant Heian period

平安時代に書かれた古典『更級日記』は、作者の菅原孝標女（すがわらのたかすえのむすめ）が上総国を旅立つところから回想記が始まります。上総国の国府は現在の市原市内にあったとされており、毎年「上総いちはら国府祭り」を開催しています。なお2020年は、菅原孝標女が市原を旅立ってから千年という記念すべき年です。

菅原孝標女の出立のシーンを再現した「更級日記旅立ち行列」

チバニアンガイド石井あゆみさんに聞きました！ チバニアンビジターセンターとは？

2019年12月、見学者のためのガイダンス施設「市原田淵地磁気逆転地層ビジターセンター（愛称：チバニアンビジターセンター）」がオープンしました。施設内では、パネルや模型などを使って、地磁気逆転地層と周辺の地形について解説しています。

じつは、オープン前からガイドの活動を始めています。チバニアンが注目されはじめたとき、見学者の方が「よくわからなかったね」と話していたのを見て、「どうにかしたい」と地元の住民が立ち上がったんです。せっかく見学にいらっしゃったのだから、地層の意義と奥深さをきちんと知っていただきたいです。

建物は仮設ですが、展示物の質とガイドの熱意はどこにも負けません。多くの方にチバニアンの魅力を伝えられるよう、これからもがんばります。

▲ 地層周辺の360°の映像が楽しめます。

チバニアンビジターセンターの様子

石井あゆみさん
チバニアンガイド代表として活躍するかたわら、後進の育成にも尽力する。